明日からできる
個別最適な学びと協働的な学び
【図画工作・美術】

主体的・対話的で深い学びの
実現に向けて



千葉県教育庁東葛飾教育事務所指導室

表現及び鑑賞の活動に、
個別最適な学び・協働的な学びが入っている。

造形的な見方・考え方を働かせる

表現及び鑑賞を通して

よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る
感性や想像力を働かせ
造形的な視点で捉える

一人一人の
感性・考え

自分との対話
他者との対話



（見えない）
意味や価値をつくりだす

生活や社会の中の形や色など
（美術や美術文化）と豊かに関わる
資質・能力を育成

小学校

題材例：造形遊び「光や色の場所をデザインしよう」（透明素材や光を使った造形活動）

一人一人の
感性・考え

個別最適な学び

往還

協働的な学び

自分との対話
他者との対話

選択肢の保証

セロハン、透明容器、光を透かすシートなど…
使いたい材料や道具などについて場を工夫
児童が自分で選べる環境を整える。

思考・手順の差への支援

●じっくり材料の触感を楽しむ児童
　➡ 試行の時間を多く取る
●形から着想を得たい児童
　➡ 光の当たり方の参考例を提示

対話による着想の拡大

作品を窓辺や廊下に設置する際、
友達と試しながら意見を交わす。
　「光が重なると色が変わる」
　「高さを変えると影の形がおもしろい」

価値の共有

互いの作品のよさや面白さを伝え合う。
光の捉え方や素材の生かし方について、
自分とは異なる価値に気付き、さらに自分の
表現を更新する。

中学校

題材例：デザイン・工芸表現「社会や暮らしの課題を解決するピクトグラム／ピクトデザイン」

一人一人の
感性・考え

個別最適な学び

往還

協働的な学び

自分との対話
他者との対話

課題設定の個別化

生徒自身が関心を持つテーマを選んで設定

「校内のわかりにくい場所を案内する」

「地域の防災意識を高める」

表現媒体の選択

生徒の得意・不得意や表現したい意図に合わせて自由に選択、調整できる環境を保証

- ●手描きのスケッチで進める
- ●タブレット等のデジタルツールの活用

（グラフィックソフト等）

中間鑑賞

制作途中でグループを作り、対話をとおして多角的に意見交換を行う。

「この色使いは遠くからでも目立つか」

「意図したメッセージが初見で伝わるか」

見方の深まり

伝わりやすさの違いや造形的な工夫について助言し合う。

➡ 客観的な視点（鑑賞者の視点）を取り入れ、デザインの精緻化につながる。

実践例

「ほった線からはじまるお話」（小学校4年）

めあて
◎彫刻刀の使い方になれ、彫り方や刷り方を工夫する。
◎彫ってできた線の感じから想像を広げ、表したいことを考える。
◎彫刻刀で彫って、紙にすることを楽しむ。

1	2	3	4	5	6	7
見通しをもつ。彫刻刀の使い方を知る。	色々な種類の彫刻刀で試し彫りする。	気に入った表現を見つける。表現を試す。	版木を彫る。	版木を彫る。	版木を彫る。	鑑賞と振り返りをする。
協働	個	個+協働	個	個	個	協働+個
少し委ねる	ほぼ委ねる	ほぼ委ねる	ほぼ委ねる	ほぼ委ねる	ほぼ委ねる	ほぼ委ねる

個別と協働の往還
自己調整

単元の始めに示し、
自分が目指すレベルを決める

⇒　学習意欲の向上
さらなる成長の促し

実践例

「ほった線からはじまるお話」（小学校4年）

自己決定の場　ルーブリック評価

単元始めに示し、
自己決定の場を設定する。

	3	2	1
技能	彫刻刀を適切に扱い、表したいことに合わせて彫刻刀の種類や彫り方や刷り方などを試しながら、工夫して表している。	彫刻刀を適切に扱い、表したいことに合わせて彫刻刀や刷り方などを試しながら、工夫して表している。	彫刻刀や刷り方などを試しながら、表している。

環境設定

博物館・美術館の紹介

見通しが持てる
単元計画

活動場所の確保



小学校5・6年
彫刻刀の作品

安全管理
刃物の扱い方
怪我をしたら

版画用具、すべり止め、
新聞紙、インク、紙

彫刻刀の扱い方の
動画を繰り返し流す